

安心して受けられる医療提供体制の確保へ

本市の地域医療の変遷

海軍鎮守府が置かれた舞鶴市では、約10万人の人口に対して4つの総合病院が存在し、京都府北部の医療の要所として全国的にも大変恵まれた医療環境を誇っていました。

平成に入り、本市周辺の市町に

も、中核となる病院の設置や機能強化が行われたことで、近隣市町からの流入患者が減少。さらに近年では人口減少と少子高齢化が進展し、市内公的病院の患者数は減少傾向が続いています。

生計画(平成24年国承認)に基づく「選択と集中」「分担と連携」を基本コンセプトに、市内の公的病院に分散する診療機能や資源を選択し、集中することで、診療機能のセンター化を目指し、施設整備などを行ってきました(左上表)。

「地域医療を考える会」を設置

地域医療に対する市民の関心は高く、医療ニーズも高まりを見せています。このような中、医療を支える医療従事者の声をさらに伺いたいと、鴨田市長の呼びかけにより、昨年5月、舞鶴市長、舞鶴医療センター院長、舞鶴共済病院院長、舞鶴赤十字病院院長、市立舞鶴市民病院院長、舞鶴医師会会長が一堂に会し、医療現場の現状や直面している課題について議論を交わす場として「持続可能な地域医療を考える会」を設置。昨年5月〜今年1月にかけて計5回の会議を開催し、人材の確保

や救急医療、災害時医療などについて活発な議論を重ねました。(関連13頁)

や救急医療体制に課題が生じている側面があること、医療の安全や質の向上に加え、若手医師の育成に求められる環境などに及ぶと同時に、デジタル技術の活用や4月から導入される働き方改革など、時代の流れに関する洞察も加えていただき、来場者を実施したアンケート調査では、医療現場の現状や課題について理解が深まったとの意見や、約9割の人からシンポジウムは有意義だったと肯定的な回答が寄せられました。

持続可能な地域医療の確保に向けて

今から約20年後の2045年には、本市の人口は5万8千人になると推計されており、今後の医療ニーズや、担い手の確保など、変化に応じた対応が求められます。10年後、20年後の未来でも安心して医療を受けられるように、将来を見据え、医療機能をどのように最適化していくのか、今後の分担と連携のあり方はもとより、再編や統合も選択肢に想定しながら、地域の実情に応じた医療提供体制をどのように築き上げていくのか、関係機関との連携を密にしながら、検討を重ねていきます。

市内医療機関の特徴的機能

舞鶴医療センター	◇脳卒中センター ◇周産期母子医療サブセンター ◇小児科診療
舞鶴共済病院	◇循環器センター ◇泌尿器科診療
舞鶴赤十字病院	◇リハビリテーションセンター ◇整形外科診療
舞鶴市民病院	◇慢性期医療を担う医療療養型病院

身近なかかりつけ医

舞鶴医師会所属の医師など	◇平日の午前・午後、土曜日に外来診療 ◇このほか訪問診療、学校医、乳幼児健診、休日急病診療所など。最近では新型コロナワクチン接種にも従事
--------------	---

来場者からパネラーへの質問と回答を一部紹介

Q. 呼吸器疾患、血液疾患、腎臓病の常勤医は舞鶴にいない。場合によっては北部医療センター(与謝野町)、福知山市民病院(福知山市)に行かないといけない。市内に呼吸器と血液の常勤医を配置できないか。

A. 各場所に各専門医を全てそろえても、その体制に見合った患者の数があるというわけではなくなってきている。受診形態を二次医療圏内で考えるなど広域化しないといけない。広域化を前提として交通アクセスを良くするとか、画像データを共有するとかを考えていかなければならない。各地域に専門医全てをそろえることは大学の教授も難しいと考えていると思う。

Q. 平成23年の中丹地域医療再生計画がいったん白紙になり、各病院で機能分担することになった。その後、10数年が過ぎ、舞鶴の医療体制は悪くなったと思う。将来的に病院統合の話はどうか。

A. 今すぐ再編統合ではなく、効率化できるところから努力する。再編統合は避けて通れないかもしれないが、何より安心して医療が受けられることが大事だと考えている。

A. 病院の統合や再編の議論が進んでいる地域もあるが、安全安心な地域医療をどのように担保するのかを第一に考えたい。考える会でも、統合再編の議論の必要性について意見が出ていた。一つの選択肢として、今後考えていく必要がある。

◀シンポジウムのより詳しい内容は市ホームページに掲載しています



地域医療シンポジウム

第二部パネルディスカッションの内容を一部紹介

パネラー 一人ひとりから、所属する機関が地域で果たしている役割、直面している課題等について説明し、その後、それぞれの課題について議論しました。

【テーマ】医療現場の現状と今後の展望

【コーディネーター】市立舞鶴市民病院院長 井上重洋氏

【パネラー】◇京都府立医科大学医療センター所長 加藤則人氏◇舞鶴医療センター院長 法里高氏◇舞鶴共済病院院長 沖原宏治氏◇舞鶴赤十字病院院長 片山義敬氏◇舞鶴医師会会長 隅山充樹氏



課題テーマ	パネラーの具体的発言
医師人材不足	◇市内の患者総数に応じた医師の総数は足りているかもしれないが、非効率な医師配置が、各病院の医師不足や救急医療体制に関する課題と関連がある ◇医師を育成する立場(大学)として、同じ病院で医師の数が多きほど、身近な環境で症例を学ぶ機会も増え、医師の育成にも貢献する。4月から働き方改革が導入されることもあり、効率的な医師配置は、医療の安全と質の向上にもつながる
看護師不足	◇医師不足に限らず、看護師不足によって病棟閉鎖につながるケースもある。子育てしながら働ける環境や、子育て・介護で一時期休職しても復帰しやすい環境を整えることも重要 ◇公的4病院の看護部長が連携し、病院単体ではなく、病院群として人材確保策に取り組もうとしている。潜在看護師の確保も含めて、舞鶴の看護師確保につながることに期待したい
救急医療	◇一次救急(日帰りでできる比較的軽症な患者に対応)を担う機関として、毎週日曜日に開設している休日急病診療所は、二次救急(手術や入院が必要な患者に対応)を担う二次病院(公的病院)の負担軽減につながっている ◇福知山市民病院が三次救急(生命に関する重症患者に対応)を担うが、一刻を争う脳疾患は医療センター、心疾患は共済病院が担っている ◇課題は平日夜間の内科診療。春からは働き方改革が導入される。救急医療を守るためには病院間の連携がより重要になってくる ◇急な病気やけがで困った時は#7119など電話相談も有効である
経営	◇病床稼働率が低下し、経営課題が大きくなっている ◇診療機能の集約化を進めようとしても、収益構造が変化することになり、経営的な課題が生じる場合がある

◆パネルディスカッションまとめ

- ◇医師や看護師などの人材不足や救急医療体制、経営に関する課題は大きく、解決策に非効率な医師配置の是正や人材の中央センター化、さらなる病院間連携などが挙げられた
- ◇課題解決に向け、各機関はさまざまな努力を行っているが「自助」では限界にきており、「共助」はもとより、今後は「公助」の取り組みも必要になる
- ◇将来を見据え、選択と集中を主とした連携がいいのか、再編も視野に入れた連携がいいのか、議論を重ねる必要がある。いずれにしても、舞鶴市の医療のことを第一に考えた検討をすべき